

「施策」総括票

施策展開	3-(11)-ウ	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化
施策	③地域特性に応じた道路整備とバス路線の維持・確保	
		297頁
対応する 主な課題	<p>○離島住民の生活利便性を確保する陸上交通基盤については、地域特性を踏まえつつ定住環境の確保に資する道路整備を進める必要がある。</p> <p>○離島のバス路線は、運行距離が短く利用者も少ないことから、その多くが不採算路線となっている。今後の高齢化の進展を見据え、路線バスを始めとした生活交通の維持・確保をいかに図っていくかが課題である。</p>	
関係部等	企画部、土木建築部	

I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
主な取組		決算見込額	推進状況	活動概要
○地域特性に応じた道路整備				
1	定住を支援する道路整備	7,417,980	順調	○平良下地島空港線(伊良部大橋)、マクラム通り線、石垣空港線等の整備を行った。(1)
○離島バス路線の維持・確保				
2	バス路線補助事業(生活バス路線確保対策)	43,449	順調	○離島4市町村の19のバス路線で生じた欠損に対して、市町村と協調して補助を実施した。(2)
3	地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)	市町村事業	順調	○座間味村、伊平屋村が主体となって取り組んでいる住民の移動手段(バス路線:フィーダー線運行)の確保について、県は協議会の構成員として参加し支援した。(3)

II 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

1	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	沖縄の現状
	県管理道路(離島)の改良率		89.9% (21年度)	90.2% (22年度)	90.3% (26年度)	0.3ポイント	90.1% (21年度)
状況説明	目標達成に向け、県管理道路(離島)の改良率は着々と上がっており、離島地域の定住環境の確保につながっている。						
2	成果指標名		基準値	現状値	H28目標値	改善幅	沖縄の現状
	生活バス路線輸送実績(離島)		50万人 (22年)	51.1万人 (23年)	50万人	1.1万人	—
状況説明	本島においては生活バスの輸送人員が年々減少しているが、離島での生活バスの輸送人員は基準年より1.1万人増加しており、バス路線補助事業等を推進することで、バスを離島の生活の足として定着させ、路線の維持・確保を図る。						

(2) 参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	沖縄の現状
バスの一般乗合旅客輸送人員(沖縄本島)	2,711万人 (21年)	2,602万人 (22年)	2,568万人 (23年)	↘	—

III 内部要因の分析 (Check)

—

IV 外部環境の分析 (Check)

○地域特性に応じた道路整備

・交通機能と沿道アクセス機能のいずれを優先するかや、景観、防災への配慮など、地域が道路に求めるニーズが多様化、複雑化してきている。そのため、画一的な整備ではなく、地域のニーズに柔軟に対応する必要がある。

○離島バス路線の維持・確保

・バス路線運営のための経費の燃料費、人件費、バス取得費用や修繕費などは、固定費的な性質のものが多いことから、経営努力による節減だけでは改善を図ることが難しい。
・離島のバス輸送実績は、平成23年度は増加したものの、近年は自家用自動車の普及や過疎化等によりバス利用者が恒常的に減少する傾向にあり、採算面で構造的課題を抱えている。

V 施策の推進戦略案 (Action)

○地域特性に応じた道路整備

・情報共有を密に行うなど市町村と連携して地域特性の把握に取り組み、地域ニーズに柔軟に対応した街路整備を推進する。

○離島バス路線の維持・確保

・離島住民の生活利便性を確保するため、赤字路線に対する欠損額の補助に継続して取り組み、離島住民の移動手段の確保・維持に努める。
・コミュニティーバスやデマンドバス等の地域の生活の足の確保に関する取り組みに、地元市町村と連携して支援を行う。